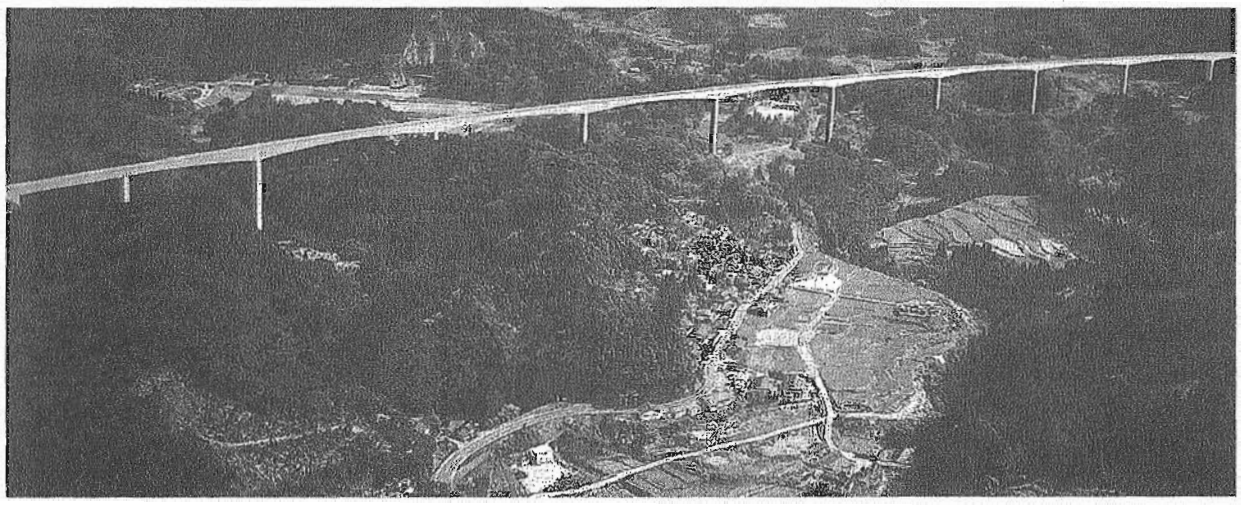
東九州自動車道 末吉財部－国分IC間

日本道路公団（JH）が整備を進めてきた大隅地域の産業や経済、文化の交流に寄与すると期待される東九州自動車道の末吉財部ICから国分IC間22・5キロがほぼ完成。21日、報道関係者を対象に事前現場公開が行われた。3月2日の開通を待つだけとなった同区間の概要や開通による効果、主な施工方法などまとめてみた。



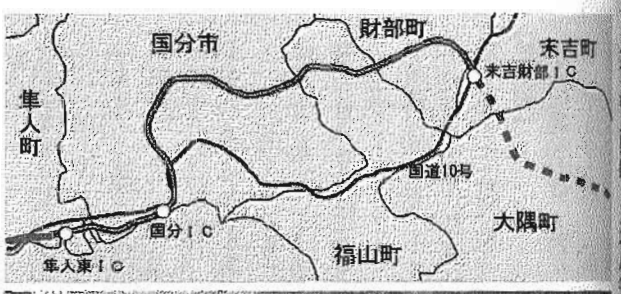
継ぎ目を設けない構造として国内最大の国分川原橋（全長1,146m）＝国分市川原

【路線の概要】

東九州自動車道は北九州を起点として終点鹿児島市に至る全長436キロ。末吉財部IC－国分IC間は、平成5年11月に施行命令を受け、同8年12月から本格着工した。総事業費約840億円。同区間には橋梁19橋（合計延長約4・2km）、トンネル3カ所（同約1・6km）、切盛土量は約600万立方㍍。暫定2車線で一部「おもいやり車線」が設けられているほか、休憩施設として国分PAがある。

【開通による効果】

末吉財部ICから鹿児島空港への移動時間は約15分短縮、鹿児島へは約25分の短縮が図られることによって、大隅半島における産業・経済・文化の発展に期待されている。また、国道10号と並行していることからダブルネットワークが形成され、災害時などにおいても強固なライフラインが確保される。



【開通区間の特徴】

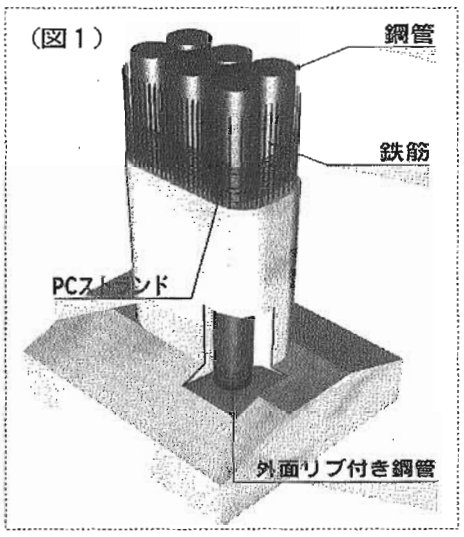
延長の約2割を占める橋梁の中で、国分川原橋（1146m）は上部工をPC（プレストレスコンクリート）11径間連続ラーメン箱桁橋で施工され、橋梁の途中に継ぎ目を設けない構造としては国内最長のコンクリート橋梁となる。橋桁の施工は片持ち架設工法と呼ばれる空中施工により架設された。

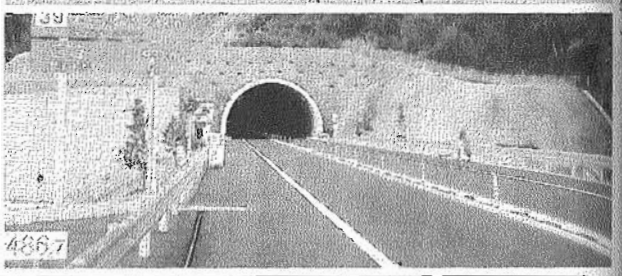
また、下部工は高さ50㍍程度以上の橋脚に鋼管・コンクリート複合構造橋脚（ハイブリッド工法）＝図1参照＝が採用。同工法は、複数の鋼管を先行して建て込み、外周に主鉄筋を配置しPC鋼より線を連続らせん巻きし、コンクリートを打設するもの。内部に配置された鋼管と外周のPC鋼より線の効果により耐震性に優れ、鉄筋の加工や組み立て等の作業が省力化されることによって約3％のコスト削減が図られた。

このほか、トンネル出入口を竹割り構造とし、舗装は雨水を透しやすいコンポジット舗装を採用、道路法面は緑化に努め、可能な場所についてはガードレールの代わりに盛土に植栽を施し、環境に配慮している。

なお、3月2日午前10時から同区間内の国分PAにおいて完成式典が行われ、午後3時から一般車の通行が可能となる。

（図1）





県建設業協会 栗野支部 安全パトロール

各社の工夫、高く評価

県建設業協会栗野支部（佐々良忠満支部長）は21日、13年度第2回安全パトロールを実施し、会員、本部役員、各発注機関、加治木労働基準監督署などから約60人が参加して管内8現場の診断を行った。

栗野建設業会館で行われた出発式では、山口克典労務委員が重点項目等を説明した後、2班に分かれて出発した。

このうち2班は、姶良郡牧園町の4現場で現場事務所の整理整頓、安全日誌の記入状況、有資格者の名前の掲示など入念に点検。各現場とも大変良くできていると診断された。中でもヤマグチ㈱の工事概要書や㈲田中建設の安全掲示板、㈱丸野組の花壇等による現場のイメージアップ、福地建設㈱の月ごとに色を変えてのワイヤーロープ点検など、各社独自の工夫で安全管理を行っていること等が高く評価された。

反省会では、佐々良支部長が「当支部では特別労働安全パトロール隊を結成して抜き打ちパトを行っているが、会員もよく理解され無事故無災害を重ねつつある。油断せず、笑顔で年度末を迎えられるよう努力していただきたい」と挨拶。

診断発表では重機点検の記載もれや通行人への配慮など小さな指摘はあったものの、どの現場でも基本的に良くできていると診断され、最後に神村健一郎加治木労働基準監督署厚生労働技官が「点検表の点数制度による評価など非常に良い試みが見られた。今後も十分な安全管理をお願いしたい」と締め括った。

また当日は無災害運動月間説明会も開かれた。

現場事務所も入念に点検する診断員
＝牧園町の現場で

物人建築について講演する髙﨑氏
＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

生きた建築を語る

かごしまデザインフェア 髙﨑正治氏が講演

かごしまデザイン協議会は20日、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で「かごしまデザインフェア2002」基調講演を開き、建築家の髙﨑正治氏（㈱髙﨑正治都市建築設計事務所）が物づくり、人づくりを通して生きものの建築を創りだすことなどについて講演した。

講演会では、建築家の髙﨑正治氏が「物人建築」について講演した。この中で、山や川が心の中でシンボルになるように、建築が自ら環境生命体として人や地域の有機的関係に協働する生き物のような建築を追求していると前置きし、「14歳の時に処女作を発表し、絵画から彫刻、建築空間と移行する中でイマジネーションを膨らませ、平面を立体的に表現し直感的なものを大切しながら、家族、街、都市建築と発展させてきた」と語り、鹿児島建築コスモロジー構想では建築地の地域性、生活性が世界性につながることを標榜し、海のシルクロードに沿って展開するユーラシア大陸各地の風土や文明が密かに放つイデアとの出会いを展開していきたいとも付け加えた。

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ

UM
信頼のブランド
UM
■梅彦の建材・建築用機械工具
●タイル・大理石用接着剤
UMボンドフィラー、樹脂モル
●モルタル接着増強剤
モルダインMD-3000
●ウレタン塗膜防水剤
ウレタック、シンプルカラー
■UM天然石材
■梅彦の壁材料
「Gライト」使用
超軽量砂壁（三種）
（GLハイブリッドシリーズ）
内装用仕上材
エコマーク認定
●砂壁R-サンド ●わら屋根
●UMけいそう土シリーズ
珪藻土・Gライト配合仕上材（中性タイプ）
ボードに一発仕上げができる
進化形けいそう土
株式会社 梅彦
本社 〒530-0015 大阪市北区中崎西
TEL:06-6377-3500 FAX:06-63
株式会社 財部建材店
本社 〒890-0056 鹿児島市下荒田
TEL:099-251-8628 FAX:099-